

平成24年度 八洲学園大学国際高等学校事業計画書

1. 施設の概要

(1) 所在地

学校名	所有区分	郵便番号	学校(会場)所在地	電話番号	FAX番号
八洲学園大学国際高等学校	法人所有	905-0207	沖縄県国頭郡本部町備瀬1249	0980-51-7711	0980-48-4115

2. 学生(生徒)の概要

(1) 設置課程・学科・収容定員・在籍者数一覧(平成24年3月1日現在)

設置課程	設置学科	入学定員 (人)	①収容定員 (人)	②正科生 在籍者数 (人)	③技能連携 在籍者数 (人)	④聴講生数 (人)	収容率 (%) $(②+③) \div ① \times 100$
通信制課程 (広域)	普通科	※※※※※※	5000	782	0	5	15.64

(2) 平成24年度入学者数・卒業者数・転学者数・退学者数・除籍者数予測一覧

	入学者数 (途中転編含む)	卒業者数	転学者数	退学者数	除籍者数	増加予測人数
正科生	280	205	10	5	40	20
聴講生	4					

3. 教職員関係

(1) 平成23年度管理職の概要

職名	氏名	備考
校長	岩井 貴生	留任
教頭	中村 成希	留任

(2) 平成24年度教職員の概要（平成24年3月1日現在）

		合計（人）	沖縄	横浜
教員	本務	男性（4） 女性（5）	8	1
	非常勤	男性（2） 女性（5）	7	0
職員	本務	男性（2） 女性（0）	2	0
	兼務	男性 女性	0 0	0 0

平均年齢は教員38.5才、職員38.5才である（平成24年3月1日現在）

4. 事業の概要

(1) 事業の概要

① 主な事業の計画

年度	事項	概要	進捗状況
23～24	eラーニングコンテンツの刷新	25年度から移行の新学習指導要領に対応したeラーニングコンテンツの開発・制作とスマートフォンなどの新メディア利用を進め、学籍管理料の増収を目指す。	23年度よりeラーニング関連会社数社と連絡をとり、仕様を詰めている。
23～24	レポート内容の改善	25年度から移行の新学習指導要領準拠の教科書に即して全面改訂または新規開発する。特に理数系教科書の難易度増をレポート側で平易化の工夫をして、生徒の一層の学習理解をはかる。	23年度の作業で24年度先行実施科目レポート作成は完了した。24年度は新カリ全科目について改訂・新規制作を進める。
22～24	携帯電話を活用したレポート補助教材の開発	レポート提出率、合格率の向上、FAQ問合わせ対応の効率化を目的とし、すべてのレポート教材にQRコードを掲示し、情報端末か話らアクセスできるWEB上の補助教材を整備する。	23年度までに、全科目のレポートへのQRコード掲載作業と携帯電話からの補助教材利用化は完了した。24年度はスマートフォン対応化をはかる。
23～	新学習指導要領及び移行措置に伴う指導計画方針の策定	24年度からの先行実施及び25年度から導入される新学習指導要領に沿った各教科ごとの指導計画を作成する。一般生の半数以上が転編入生であるので、新カリ・現行カリを平行で進める期間の短縮と効率的な履修指導・スクリーニング計画により、スクリーニングコストや生徒さんの負担減少を実現する。	23年度に先行実施科目への転編入生向け指導計画方針は策定した。全面移行となる25年度に備えて、24年度中に必要な準備を進める。
22～	学校要覧の作成・配布	学校要覧を毎年作成・配布することによって本学への信頼度を上げる。特に指定校推薦の開拓、サポート校開拓等のツールとして、生徒募集に活用する。	22年度から企画を進め、23年度に初版の発行を行なった。25年度は、改訂版を発行し、生徒募集ツールとしての活用を進める。

22～	自己点検評価の作成	23年度の業務全般を自己点検し、新しい事業へのチャレンジと具体的な目標の設定を行なうことで、組織の活性を維持・発展させる。 外部へ公表することで保護者や入学検討者への学校の信頼度や魅力を向上させる。	22年度から進めている自己点検資料を、23年には学校WEBサイトでの公開を進めた。24年度は23年度計画の自己点検結果とあわせて公開する。
22～	高大連携の具体化	高校と大学の連携・接続を深めることで、内部進学者をいっそう増やすと共に、大学のある学園の高校として入学見当者からの魅力向上をはかる。具体的には大学の講義の高校生受講、大学教官の講演などの交流活動と、大学パンフレットの高校での配布や校内情報誌「ゆんたく」での大学記事掲載などを実施する。	22年・23年は大学GPでのコンテンツの高校生利用や、大学パンフの積極的配布を進めた。24年は、高校の地域支援活動であるひきこもり支援活動への大学教官の派遣など、高校の魅力を高める活動により注力してゆく。
23～	進路指導の強化と進路捕捉率の向上	在校生・卒業生の進路開拓が、卒業生の人生を支えるだけでなく、生徒募集上の学校の魅力向上になることを教職員間で共通の認識として、教職員で連携し学校全体で進路指導に当たると共に、特別活動や通学スクーリングでの積極的な進路指導プログラムの導入と、卒業予定者や卒業生の進路把握を組織的に進める。	23年度はホームルームでの進路指導導入、職業体験講座、進路状況の共同掲示板設置を行い、生徒さんの進学・就職意欲の喚起と進路捕捉に努めた。 24年度は、進路関係の校内掲示物の強化による進学意識向上、就職講座や合同企業面接会参加を積極的にはかる。
22～	高認試験希望者への対応強化	聴講生（高認試験希望者）向けのパンフレット作成・配布、学校WEBサイトでの高認試験情報ページの追加、高認向け資料請求フォームの追加を実施して高認受験希望者への当校の周知をはかり、あわせて聴講生に対応したスクーリング時間割など、学校の魅力向上をはかる。	22・23年度で広報ツールやWEBサイトのページ設置を配した。24年度は新学習指導要領導入にともなう科目読み替えの拡充など受入れ体制の整備を進めて、志願者にとっての魅力を向上させる。

22～	地域貢献・地域交流	地域の恒例行事となった少年サッカー大会を主催し、地域貢献・地域交流を通して学校の知名度と好感度を浸透させる。また、定期的な学校近隣の清掃、地域行事などにも、昨年度同様可能なかぎり参加する。 「ひきこもり支援相談士認定協議会」に加盟し、地域のひきこもり支援者普及とスキルアップに貢献することで学校の知名度向上と入学見当者との遭遇機会向上をはかる。	22年から、月2回の学校近隣の清掃や地域行事への参加、そして本学主催の地元チームのサッカー大会は地元から高い評価を頂いた。 23年度より外部講師を招いて「ひきこもり支援」に関する講演会&勉強会を毎月実施している。
22～	WEBプロモーションの展開	ソーシャル系メディア（ツイッターと現行メディアの連携を含む）への広報展開を行なう。	23年にツイッターでの展開を開始し、WEB導線の再構築を行なった。24年度はフェイスブックでの広報展開を進める。
22～	技能連携校・サポート校の開拓と支援	技能連携校・小規模塾や高等専修学校などのサポート校開拓とサポート校の募集支援・連携した広報活動などの支援活動を通じて、生徒募集のチャンネル増を維持・拡大させる。	24年度は、23年までに各地に開拓したサポート校の支援と、ひきつづき県内外のサポート校新規開拓を行なう。
23～	広報ディスプレイの更新	スクールバス車体広告、横浜分室窓広告を更新し、学校の認知度向上をはかる。	24年度当初の更新をめざす。

23～	生徒の問題行動の未然防止	本校での生徒指導のあり方を見つめ直し、生徒対応の方法・学校ルールのアナウンスを再考慮して問題行動の未然の防止に努める。担任と生徒指導部だけでなく、全教職員での確認や研修、マニュアル整備を通して、学校力として生徒対応に当たる。	23年度は、宿舎管理規則や運用の見直しを進めるとともに毎時の教職員巡回の徹底をはかった。24年度は、各スクーリングの状況ごとに事前の生徒指導方針確認・調整を行ない、きめ細かく対応することで、問題行動の未然防止の深化をはかる。
24～	来校者支援	近年、地域の民生委員の研修活動やひきこもり支援の勉強会参加者など、来校者や見学者が一貫して増加している現状を踏まえ、校内への案内板の設置・を進め、学校の好感度向上をはかる。	

② 施設・設備の整備計画

年 度	事 項	事業規模等	事業費	財 源	実施時期	備 考
22～	校舎宿舎の修繕 (宿舎壁、各棟エアコン修理、セキュリティシステムの改修、宿舎手摺のサビ止め、宿舎ベッドの修繕、シャワー部品改修など)	小規模	500000	管理修繕費	未定	
22～	PC、PC 周辺機、印刷機などの設置	中規模	500000	備品補充費	24年度中に更新完了	
23～	新学習指導要領に対応した e-learning コンテンツの研究開発	中規模	1000000	研究費	24年度試行、25年度本導入	

③ 授業料変更等

年 度	事 項	概 要
	計画なし	

④ 卒業者数、就業者数の見込みについて

平成24年度は、23年度ベースで見積もった結果、約200名の卒業者数を見込んでいる。
卒業予定者への進路アンケートによると、今年度の学校把握新規就業者数は、10名程度であった。

⑤ 生徒の就職、進学状況について

進学では、医学・看護・福祉系への志願者増や芸術系大学志願など、高等教育への進学意欲が高まりつつある。
沖縄県内生徒増に対応して沖縄県内の指定校推薦制度のある進学先開拓を実施した。平成24年度の取り組みとして、県外のライバル校に対抗すべく、県外の指定校推薦の学校数を増やし、生徒の進学の選択肢を広げるとともに、新入生募集上の学校の魅力向上を図る。

⑥ 教職員採用・退職計画

年 度	事 項	概 要
23	退職者（教職員1名、非常勤講師2名、パート3名）	
24	教職員採用（常勤講師3名、パート2名）	任期制教員（有期8名）、常勤講師（有期3名）、非常勤講師（有期6名）常勤職員（有期2名）、パート（有期3名）

5. 財務の概要

平成22・23年度の変動費支出の見直しにより、入学予定者数に大幅な伸びが見られなくても黒字を確保する体質としてきた。さらに生徒指導の強化や高等学校等就学支援金の副次効果で追加科目登録者数増や除籍者減少など、在校生の授業料単価の上昇がみられた。平

成 24 年度もこの傾向が続くことが期待できる。

24 年度の財務計画では、25 年度からの新学習指導要領本格実施に伴う科目増に当てるため、教材費、研究費を確保した。教育内容と施設・設備の改善に投資し、「教育の質」を向上させることによって徴収した授業料を生徒に還元していきたい。